



DEC 21th
13号

電子機械科 NEWS

Systems Engineering Mechanical & Electrical

咳がやまない
背中を
たたく 手がない
山頭火

益田翔陽高等学校

Shoyo・ILLUMI 2015

■12月に入り、クリスマスが近づく、神戸ルミナリエをはじめ、日本中いろいろの名所で〇〇イルミとか△▽ナリエとか、LEDをつかった夜の装飾が行われる。

■12月5日(土)～26日(土)の間、グラントワでも「グラナリエ 2015 in グラントワ」の名称で催される。

■電子機械科でも4年前から規模は小さいながらそれらしき行事を行っている。今年もロボコンが終了後、課題研究のロボコン班と工作部1年がマイコン制御のイルミネーション2体を作成。翔陽祭で展示のあと、12月から工業棟入り口、昇降口正面で展示をしている。

■今回の作品はコンデンサを使い、ゆっくり点灯・消灯を目指したがどうでしょうか・・・

■さて、規模の基準値としてLEDの数が使われことが多い。そんな理由で、先日1年生と一緒にLEDの数をカウントしてみる。本校の今年度の個数は1500個であった。

ちなみに神戸が20万個以上、益田グラントワが15000個ということである。

●写真上：TREEを製作した

左から寺戸・有元・新井・石田くん

●写真下：動くトナカイを製作した 左から石川・中島くん

隣は撮影に参加してくれた総合学科3年生のみなさん



土木遺産「高角橋」その秘密

■先日、出張帰り友人が訪れた。益田を案内する中、高角橋のレトロな雰囲気と偉く感銘していた。そんな理由で通学・通勤で利用する高角橋を調べてみた。

■みなさんは高角橋が土木遺産ということを知っているだろうか、鉄筋コンクリートローゼ桁としては全国的に大規模ということで2011年(H23)に土木学会推奨土木遺産に認定された。

■最初に高津川に橋が架けられたのは1892年(M25)それまで渡船が利用されていたということである。

■しかし、木造、大雨による洪水のため破損が繰り返され、1919年(T8年)の大洪水で木造に代わる橋の計画がはじまり、計画開始から約20年を経て、現在の5連鉄筋コンクリート橋が1942年(S17)に完成した。

■ところが、完成の翌年未曾有の大洪水。今度は丈夫になった高角橋が堰となり、上流が決壊100名あまりの方々が犠牲になり、洪水対策として、川幅拡張と架橋を1.1～1.6m持ち上げる工事が行われ、1952年(s27)に現在、私たちが利用する高角橋が完成したということである。

■いままで何故、須子側にアーチがないのか、不思議に思っていたがこれで知ることができた。

〈土木紀行：建設マネジメント技術 2013年6月号〉参考

